

地域とむすぶ、 子どもを中心としたカリキュラムを！

●多くの自治体が「教育再生」や「教育県（教育のまち）〇〇の復活」、「全国学力調査〇位以内」などを教育の「特色」として掲げ、その実現にむけた教育施策を次々と打ち出しています。「特色」の多くは、「全国学力・学習状況調査」の結果をもとにした「学力向上」です。子ども不在の「特色」にふりまわされることなく、「子どもは地域で育つ」ことをふまえ、「子どもを中心とする学校づくり」「地域とつながる学校づくり」をすすめていきましょう。

●「学校の特色」は、子どもたちがつくるものです。「こんなことをやってみたい」「もっとこれをじっくり学びたい」「自由な時間にもっとこんな経験がしたい」「将来はこれを実現させたい」「自分の住む地域をこんなふうにしたい」などの子どもの気持ちや声を尊重していきましょう。

また、カリキュラム編成にあたっては、保護者や地域の声を聞くことも大切です。それぞれの立場からわかる子どもの様子や個性を聞いていきましょう。カリキュラムは、子どもの学びに応えるもの、子どもどうしの協働的な学びを実現する支えとなるものです。子どもたちの活動や学びの過程を大切にしたカリキュラムづくりをすすめていきましょう。

